

【方針2】 豊かさが実感できる暮らしの実現

6 誇りある暮らし実現プロジェクト

～景観・自然・文化に囲まれた「誇り」ある暮らしの実現～



美しい景観や自然、文化を守り、育て、活かすことにより、豊かなライフスタイルを充実させ、信州人としての誇りを持って暮らせる地域の形成をめざします。

アクション1 農山村の活性化支援

伝統文化の継承や農山村ならではのライフスタイルの提案、地域に活力を与える多彩な人材の誘致など、市町村と住民が一緒になった「信州の宝」である美しい農山村の活性化を支援します。

アクション2 地域づくり人材の確保・育成

「人の力」でふるさとを守るため、移住・交流を推進するとともに、地域づくりに取り組む人材の確保やリーダーの育成を推進します。

アクション3 美しい景観の維持創造

豊かな自然や農山村の営みなどにより形成されている美しい景観の価値を維持・創造する取り組みを進めます。

アクション4 身近な自然環境の保全創造

多くの人々が豊かな自然とふれあうことができる身近な自然環境を保全・創造します。

アクション5 個性際立つ文化芸術の振興

本県に数多く存在する個性際立つ文化芸術・文化財の継承と振興を進めます。



(1) 農山村の活性化支援 (2) 地域づくり人材の確保・育成

～特色ある地域づくりの推進～



【取組のポイント】

- 市町村と住民が一体となり「信州の宝」である美しい農山村の活性化を支援
- 地域づくりに取り組む人材の確保、リーダーの育成

現状と課題

地域おこし協力隊の受入人数 **全国2位**

高齢者率50%以上の集落が増加傾向

集落機能の維持・活性化が課題

県内の過疎地域等集落

区分	H18	H22	H27
調査集落数	1,707	1,736	2,029
高齢者（65歳以上）の割合が50%以上の集落の割合	19.2%	23.0%	23.1%

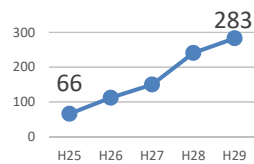
(出典：総務省・国土交通省「過疎地域等条件不利地域における集落の現況把握調査」)

主な取組

- 生活サービス・交流機能を提供する小さな拠点形成のためのセミナーや研究会の開催(H27年度～)
- 地域おこし協力隊の研修会開催等受入体制の支援(H26年度～)
- 現場での活動を通じた実践的な研修による地域づくりリーダーの育成(H26年度～)

成果

- 小さな拠点形成
H30.3.31現在48か所
達成
目標 H31：40か所
- 住民主体で地域課題の解決に向けた取組を行う組織数
H28年度 134団体→ H29年度 201団体
- 地域おこし協力隊の受入人数の増加



地域おこし協力隊の受入人数
(出典：地域振興課調べ)

(3) 美しい景観の維持創造

～美しい信州の農村景観の保全と育成～



(写真出典：ふるさと信州風景100選/048美麻新行)

【取組のポイント】

- 美しく豊かな信州の農村景観の再発見と国内外への発信
- 観光資源化による観光大県信州の魅力向上
- 持続的な農村景観の保全と育成

現状と課題

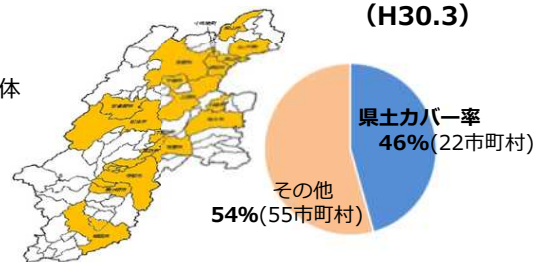
「景観行政団体※」への移行促進

※景観法に基づき良好な景観形成のための自主的な施策を実施する自治体

観光に繋げる景観の育成

信州の景観を次代に継承する県民運動の醸成

景観行政団体市町村数と県土カバー率 (H30.3)



(出典：都市・まちづくり課調べ)



「ふるさと信州風景百選」冊子発刊(7,000部)



「ふるさとの見える丘」(入笠すずらん公園からの景観)



風景の「語り部」の育成
研修参加者延べ1,191人(H30.3)



パネル展実施(47か所)

主な取組

- 市町村の「景観行政団体」への移行支援(H16.12～)
- ふるさと信州風景百選の普及とビューポイントづくりの支援(H25.4～)
- 風景の「語り部」の育成(H26.4～)

成果

- 景観行政団体へ移行
H24年度：14市町村 → H29年度：**22市町村**
目標：25市町村 (H32)
- ビューポイントの整備
H24年度：0か所 → H29年度：**47か所**
目標：50か所 (H29)

(4) 身近な自然環境の保全創造

～豊かな自然環境を守り育てるために～



<取組のポイント>

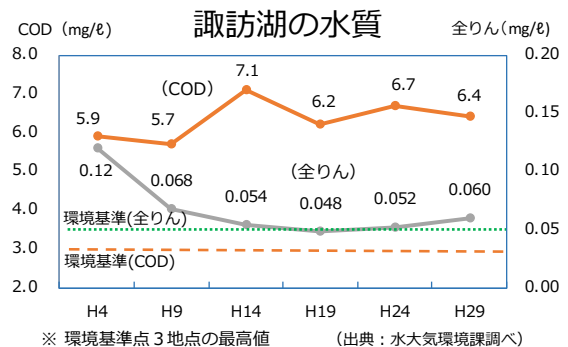
- 里山の間伐と間伐材の利活用を通じた森林づくり
- 登山道整備等山岳環境保全の取組推進
- 「人と生き物が共存する諏訪湖」を目指し水質保全の取組推進

現状と課題

手入れの遅れた里山が依然として存在

諏訪湖の水質は改善傾向にあるものの、COD、全りん共に環境基準を未達成ヒシの大量繁茂、湖底貧酸素等の発生

1人1日当たりごみ排出量822g (H28年度)



主な取組

- 里山資源の利活用等への支援
間伐材等のモデル的な利用(H25年度～)
里山資源を活用するリーダーの育成(H27年度～)
- 民間企業等からの寄付金活用をはじめ(H21.7～)、山域の将来像に沿った本格的登山道整備をスタート (H27年度～)
- 水質保全、生態系保全、まちづくりの観点から諏訪湖の環境改善を検討
- “チャレンジ800”ごみ減量推進事業 (H27.2～)

成果

- 間伐材を利用した30のモデル的取組を支援
(目標:H29までに25取組を支援)
- 登山道整備等を行う10団体により、登山道を整備・改修
〔累計143箇所(県施工分含む)〕
- 諏訪湖に関連する計画を融合した「諏訪湖創生ビジョン」を策定
- 県民1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)排出量が少ない都道府県 **3年連続NO.1**



新ステーションの整備 (塩尻市)

(5) 個性際立つ文化芸術の振興

～生涯を通じて文化に親しむ環境づくり～



<取組のポイント>

- 文化芸術の担い手育成と、参画・鑑賞機会の拡大
- 県民参加による信濃美術館の整備の推進
- 地域に受け継がれる伝統文化の継承・活用

現状と課題

文化芸術活動に参加した人の割合
62.5% (H24) → **68.2%** (H29)

信濃美術館は開館から50年が経過し、
新美術館への建て替えを進める



主な取組

- (一財)長野県文化振興事業団に
芸術監督団4名配置

【舞台】	串田 和美氏
【音楽】	小林 研一郎氏
【プロデュース】	津村 卓氏
【美術】	本江 邦夫氏

- 信濃美術館の整備に向けて、
「信濃美術館整備基本構想」(28.11)
を策定
- 文化財の保存修理及び防災事業の
拡充

成果

- 文化芸術による人づくりの推進と、
文化芸術に親しむ機会の拡大
セイジ・オザワ 松本フェスティバルの延べ
鑑賞者数(H25～H29累計) 361,790名
- 県民参加による信濃美術館整備の
開館目途 平成33年度当初 **推進**
意見交換等 21回(815名参加) H30.7現在
- 文化財の適切な保存・継承
文化財修理等補助【予算額】(補助件数)
H24 40,000千円(39件)
↓
H29 89,730千円(43件)

6 誇りある暮らし実現プロジェクト

達成目標の進捗状況

(総括マネージャー 企画振興部長)

進捗区分 ●「A」：目標値以上 ●「B」：80%以上100%未満の進捗
 ●「C」：80%未満 ●「実績値なし」：H29年度実績値が把握できない
 進捗割合=(実績値-基準値)/(目標値-基準値) ・「目安値」：H25～28年の目標値

行政サポートによる移住者数	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)	
	目標値 (目安値)	人		600	700	800	900	1,000	
	実績値		456	510	763	927	1,074	1,274	
	進捗区分			C	A	A	A	A	
	【関連データ】								H18～H29年 12年連続1位 出典：田舎暮らしの本(宝島社)調べ
	指標名			H26	H27	H28	H29		
移住したい都道府県ランキング			1位	1位	1位	1位			
(進捗状況の分析) 相談体制の充実や、田舎暮らし「楽園信州」推進協議会の取組の定着により、目標を達成しました。また、移住希望地域ランキングでも上位を維持しています。				(今後の取組) ・三大都市圏(東京、大阪、名古屋)での移住相談 ・ターゲットを絞った移住セミナーの開催					

都市農村交流人口	年度	単位	基準値 (H22)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目標値 (目安値)	人		560,000	578,000	580,000	590,000	600,000
	実績値		546,544	608,073	599,351	604,427	624,909	622,241
	進捗区分			A	A	A	A	A
(進捗状況の分析) グリーンツーリズムの推進や都市農村交流施設の整備等に対する支援、農林業体験を活用した学習旅行の誘致等により交流が進み、目標を達成しました。				(今後の取組) ・外部人材と連携した地域の魅力や資源発掘のためのツアー等の開催 ・都市農村交流活動の推進研修会の開催				

6 誇りある暮らし実現プロジェクト

自分の暮らしている地域に誇りを感じる人の割合	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目標値 (目安値)	%		83.9	83.9	83.9	83.9	83.9
	実績値		83.9	84.6	79.9	80.6	83.5	81.8
	進捗区分			A	C	C	C	C
(進捗状況の分析) 年代別に前年度と比較すると、20代の評価が8.9ポイント上がり、全世代で最も高くなりました。一方でその他の世代では前年度と比較して1.7ポイント下落し、全体としては目標に到達しませんでした。				(今後の取組) ・地域振興局を中心に個性豊かな地域の特色を活かした地域づくりを推進 ・誇りを感じる分野で評価の高かった「豊かな自然環境」「農山村景観」については、生物多様性の保全や里山の維持・再生等を引き続き推進				

文化芸術活動に参加した人の割合	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目標値 (目安値)	%		64.0	65.5	67.0	68.5	70.0
	実績値		62.5	59.9	62.4	64.9	70.1	68.2
	進捗区分			C	C	C	A	C
(進捗状況の分析) 目標値に達しなかったものの平成25年度の約60%から、約70%までこの5年で実績値が大きく伸びています。これは、平成27年度を「文化振興元年」と位置づけ、「文化振興基金」を設けて各種文化芸術施策の推進するとともに、平成28年度には複数の芸術分野からなる「芸術監督団」による事業等を展開してきたことが、一定の成果につながっていると考えられます。				(今後の取組) ○平成30年度に策定した「長野県文化芸術振興計画」に基づき、次のような文化芸術施策の推進を図る ・「芸術監督団」による創造性豊かな各種公演の実施 ・県民参加による信濃美術館の整備推進 ・県民芸術祭の開催 ・セイジ・オザワ・松本フェスティバルの開催支援 など				